



2024年9月20日

日本鉄道労働組合連合会

## JR東海連合第41回定期大会

**JR東海連合のあるべき姿「中長期目標（2015年度～2024年度）」最終年度！  
将来にわたる組合員と家族の幸せ実現のためさらなる一歩を踏み出そう！！**

JR東海グループ労働組合連合会（JR東海連合）は、9月5日から6日にかけて高山市内で第41回定期大会を開催し、向こう1年間の活動方針を決定するとともに、新年度の活動を牽引する新役員を選出した。同大会には、役員・代議員・傍聴者など約150名が出席。JR連合から住吉一家労働政策局長（グループ労組担当）が参加したほか、レセプションにはJR東海グループの各社代表も駆け付けた。

大会の冒頭であいさつした尾内裕昭会長（JR連合副会長・JR東海ユニオン中央執行委員長）は、JR東海連合のあるべき姿「中期目標（2015～2024）」が最終年度を迎える中、健全で強固な労使の信頼関係のもと企業の発展と組合員の生活改善を果たしてきた成果を強調するとともに、現場と向き合い、コミュニケーションの充実を通じて、新たな中期目標を策定する事に意欲を示した。そして、安全の確立、組織の強化、労働条件の向上、政治活動と事業活動について所信を表明した。



尾内裕昭会長



住吉局長、鎌田事務局長、奥村事務局次長

来賓として参加した住吉労働政策局長は、安全の確立、2024春闘の成果と課題、組織と労使関係などについて、最近のJR連合の取り組みや社会情勢などを報告した。議事では、鎌田隆司事務局長（JR東海ユニオン中央執行副委員長）、奥村敬弥事務局次長（JRグループ労組連絡会代表幹事・東海交通事業労組）から経過報告や運動方針（案）などが提起され、大会に参加した全ての単組から23名の代議員が発言し、安全の確立、人財不足への対応、組織強化・拡大、労働条件の改善、教育広報活動の充実などについて意見が示された。その後、執行部からの答弁、鎌田事務局長の集約答弁を経て、全議案は満場一致で承認された。

また、役員を選出では、尾内会長や鎌田事務局長をはじめとする多くの役員が再任。中東万丸副会長（JR東海リテイリング・プラス労組）が退任した。

最後に、尾内会長の団結がんばろうで大会を締めくくった。

